

4. 事例3: 幼い頃から周りとはなんとなく違う自分

～出会いの中で自分を表現できるようになってきた～

特定非営利活動法人 とらい
朝川君代



<概要>

M君（20代）は、今振り返ると幼い頃から周りとは違っていた気がするという。幼稚園の頃は、ずっと絵を書いたり、ずっとその場で飛び跳ねていると楽しいと感じたりしていた。反面、突然、暴れだしたり、泣き出すとずっと泣いていたりということがあった。自閉症等の診断を受けたわけではないが、何か支援の場に通った覚えがあるらしい。

小学校の時でも、団体行動がとれずにいた。先生の話を書かない事や休み時間が過ぎても遊び続けることもあり、注意されても何なのか意味が分からなかったそうで、大きな声で怒られても、何故、大きな声を出しているのか理解できなかった。まるで夢の中にいるような感覚で生活していたと振り返る。周りとの関わりに実感が持てなかったという感覚なのだろうと推測する。小学校3年生と4年生には、いじめの対象にされた。それでも何かが変わったわけでもなく、マイペースで生活を送った。それ程大きなつらさはなかったという。5年生時には、クラス替えがあり、それ以降はいじめはなかった。ただ、大人しく、声も出さず生活し、目立つ場所が嫌いだった。

高校に進学して初めて不登校になる。大きな要因は、クラスに不登校の生徒がいたからだ。それまでは不登校という概念がなかったから不登校にならなかった。概念がないといえ、困った事を親に相談するという概念もなかった。周りとなじめないという感覚はずっとあって変わりはなかったが、不登校という方法を知る事が出来たということだ。あのまま、学校に行き続けたら自分でも気付かないストレスが溜まっていた可能性もあるかもしれない。

何が出来るのか、何をしたいのか、自分でも全く分からなかったが、二十歳の頃にバイトをしてみたが、気を回すのが苦手でスタッフとのコミュニケーションが上手くできず、一ヶ月で辞めさせられた。その後、一ヶ月ほどふさぎこんで泣いている生活が続いたが、それを見かねた叔母さんが、仕出しの弁当を作りながら社会復帰を支援するNPOとらいを見つけて紹介してくれた。最初の頃は、上手くしゃべれないし、声も小さく、緊張のせいか疲れやすかった。しかし、作業を続けていくうちに、電話の対応や献立の作成、買出しも出来るようになった。作れるおかずの数や弁当の数も倍以上になったと成果を実感。今ではアルバイトをし、たまにNPOにも遊びに来ている。

<この対応はダメだった>

★特別支援がなかった。

診断を受けていないので彼が発達障害かどうかは断じることが出来ませんが、当時は発達障害支援という枠組みがなく、もし現在のような支援体制があれば、早い段階で能力を伸ばす事が出来たのではないかと思われます。

★いじめられている事を親や学校に伝えるすべがなかった。

生活の中で相談するという体験や学習をしていないと相談するという手段を選べません。自分で解決できないことは周りに相談するという習慣が大切です。

<こんな対応が良かった>

☆家族や叔母さんに支援を受けることに対する理解があった。

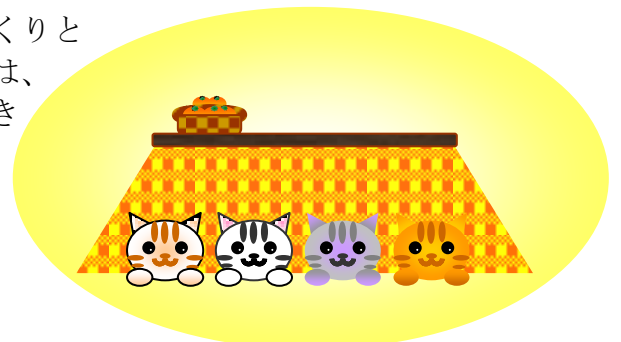
このケースは、叔母さんがNPOを探してきたというケースです。家族以外にも協力を求めることは本人や家族にとって勇気のいることです。家族と叔母さんが良い支援を探す努力と、M君との信頼関係があった事が大きな要因といえるでしょう。

☆つらい時に体を動かした。

小さい頃から運動は苦手でしたが、いつの頃からか、ストレスが溜まるととにかく体を動かしたということです。特に彼は、家の近くを走ったといいます。ふさぎ込んで泣いてすごした時も、走ることに転換できる習慣がありました。落ち込んだ時に体を動かすことは、ストレス解消にとっても良いことです。無理やりではなく体を動かす習慣を持つことは、とても大切なことです。

☆NPOで、話を聞いてくれる人がいた。

とらいでは、M君の話をM君のペースでじっくりと話を聞いてくれる人がいました。それまでM君は、ずっと周りにペースを合わせる事を強いられてきたので、とても新鮮な体験だったといいます。



☆NPOでの支援。

1. 段階に応じて作業量や難易度を増やした。

初めの頃は緊張し疲れやすい状態を考慮し場所に慣れるところから、しだいに、自分で責任が持てるところを任されるまで、仕事量を調整して対応し、その時の調子の波にも合わせて対応する事が出来るのが良かったと思われます。

2. 成果が見える。

弁当の献立を作り、材料の量を決め、買出しをし、注文を受け、弁当を作り、配達し、金銭の管理をする。それぞれが実際に行うことなので、どれぐらい出来るようになったか成果が見やすく、更に成果や目標を意識しやすいように報告書を作成しています。

3. お客さんという外部の人とのコミュニケーションがある。

まずは、NPO内で座っているだけというところから始まり、テーブル拭きや料理の手伝いなどを経て、注文を受けたり、弁当の配達・料金の受け取りという外部とのコミュニケーションまで能力に合わせて練習できます。職業訓練としても利用できる場所です。